

平成二十七年 入学試験問題

国語

第二回

【注 意】

- ・試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・問題は一ページから六ページまでです。
- ・解答はすべて解答用紙の解答らんに記入してください。
- ・字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

(1) 逆転型の皮肉でも、事実^(ア)に即したものがあはることには、サイサン述べたが、そうした皮肉の意図は曖昧になることも多い。すなわち場面の解釈^(カ)によっては、皮肉を言っているのではなく、ほめていられるとも受け取れるという意味である。しかし、皮肉の効用は、こうした曖昧な皮肉ではとくに発揮されるように思う。例を挙げよう。

山村さんは、何でも慎重^(シ)に仕事をする。しかし、あまりにもやり方が丁寧^(ナ)上、不必要な細かいことまで気にかけるので、書類作りなどに時間がかりすぎる。^(イ)ジムの効率が悪くなる。A、自分は仕事をきちんとすると自慢する。それに苛^(イ)立った江藤さんは仲間の佐々木さんに愚痴^(ク)を言いたい。たぶん佐々木さんも山村さんについて同じ感想を持っていると予想できるからである。

そのとき、江藤さんが佐々木さんに、
山村さんの仕事は本当に丁寧だね。頭が下がるよ。

と言ったとする。江藤さんとしては B 皮肉のつもりである。ただしこの発話^(ハ)には曖昧性がある。ひよっとすると佐々木さんに本気で (2) と受け取られる可能性はある。

しかしここで佐々木さんがにやっと笑ってうなずいたとすれば、皮肉は通じた判断できる。佐々木さんは江藤さんと、山村さんに関して同じようなマイナスの評価を共有している。江藤さんはそう感じるだろう。それに口汚い人だと思われにくいことも江藤さんには都合がいい。

ただし曖昧な皮肉が便利なのはそれだけではない。江藤さんが、
山村さんの仕事は本当に丁寧だね。頭が下がるよ。
と言って、佐々木さんが、
ほんとうにそうですね。山村さんの仕事は丁寧ですわね。

と答えた場合を考えてみよう。この場合、いろいろな可能性がある。

① 佐々木さんは山村さんの仕事を実際に高く評価している、そして江藤さんのコメントを心からのほめと受け取り、江藤さんに同意した。

② 佐々木さんも山村さんには批判的なのだが、江藤さんのコメントを真^(マ)正^(セ)のほめと受け取り、表面的に同意してみせた。

③ 佐々木さんも山村さんに批判的である。ただ、江藤さんのコメントはほめなのか皮肉なのか判断できず、同意したほうが無難と考えた。

これらの場合は、江藤さんは皮肉をうまく伝達した、とはいえない。し

30

25

20

15

10

5

かし、

山村さんの仕事は能率が悪いね。

と言うよりは利点がある。江藤さんが山村さんをあからさまに批判したという印象を与えないのは、いずれにしても悪いことではないだろう。とくに (3) の場合にそのことがいえる。

それに先に述べたように、佐々木さんが江藤さんの皮肉に^(ウ)メイハクに同意してくれる可能性もある。佐々木さんの反応次第で、彼の山村さんに対する評価に関して、推し量ることができるのである。誰が誰をどう評価しているかは、十分に確信が持てないことが多いだろう。そんな場合に、曖昧な皮肉は安全なやり方であろう。

さらに、こういう皮肉であれば、事実を知らない広瀬さんにたまたまそれを聞かれても、山村さんの批判をしていると気づかれずに済む、という利点もある。

(4) はじめから相手に通じないことが分かっている場合でも、皮肉は無駄ではない。

大沢さんの隣家の飯田さんは、大きな犬を飼っている。ジョンという。ジョンは元気なのはいいがよく吠える。はつきり言っているさ。しかし、飯田さんはそんなことは気にもとめていないし、犬が可愛くてしかたがないようである。この間も動物病院に健康診断に連れて行ったら、獣医から健康だとほめられた、というような話を、大沢さんや、向かいの河本さんに嬉しそうに話していた。大沢さんも犬が嫌いなわけではない。前にラッキーという犬を飼っていた。しかしラッキーはあんなに吠えなかった。

C、サクジツは日曜日だったが、ジョンはずっと前庭に出ていて、朝から吠えはじめて、夕方まで吠え続けていた。よくあんなエネルギーがあるものである。人間だったら、^(エ)ヒステリックにわめいたとしても、一〇分もしたら息切れしてしまうだろうに。D 今朝、大沢さんは玄関先で、ジョンを散歩に連れて行く飯田さんに出会った。大沢さんは飯田さんに声をかける。

おはようございます。ジョンは元気そうですね。

飯田さんは、
ありがとうございます。本当に。この子は健康優良児なんですよ。

と言つてうれしそうにジョンと駆け出していった。
大沢さんの本心はもちろん飯田さんへの皮肉である。しかし当の飯田さんは皮肉と感じていない。この場合、飯田さんへの皮肉の伝達はなされて

65

60

55

50

45

40

35

いないことになる。しかし、大沢さんとしては決して失敗ではない。まず、飯田さんを喜ばせることに成功している。その上、飯田さんに対して優位に立てる。それは飯田さんに対して皮肉を言ったこと、そして飯田さんが皮肉を理解できなかった、ということの二重の意味においてである。このような場合、飯田さんは「皮肉の犠牲者」になっているという。

このように、話し手とターゲットである聞き手に認識のズレがある場合でも皮肉は有効だし、事実を述べるような曖昧な皮肉は、とりわけ便利なのである。

皮肉がお互いに通じることには、さらに効用がある。元気なジョンの話が続けよう。大沢さんが飯田さんと会話を交わしている傍らに、お向かいの河本さんがいたとする。実は河本さんも、以前大沢さんに、

飯田さんの犬うるさいですね。なんとかならないのかなあ。

とこぼしていた。とすると、大沢さんの、

ジョンは元気そうでいいですね。

ということばには、皮肉を感じ取ることができらるだろう。そうすると、大沢さんは河本さんとともに飯田さんを暗に批判することができるし、しかも飯田さんが皮肉を理解できないことを確認しあえる。このように曖昧な皮肉であれば、ますます互いの気持ちを通わせることができると思える。つまり一種の「ヒミツも分かち合って仲間意識も強めつつ、カタルシスを味わうことに役に立つ。カタルシスという点では、直接的な攻撃や陰口と同様であるが、皮肉の場合はユーモアが伴うから後味もそれほど悪くないだろう。

(岡本真一郎『言語の社会心理学』)

★真正の……ほんとうの。

★ヒステリック……感情をおさえられず激しく泣いたり怒ったりする状態。

★ターゲット……ここでは皮肉を言われている本人のこと。

★カタルシス……心の中のしこりが解消されてすっきりすること。

問一 — (1) 「逆転型の皮肉」とは、文章全体を踏まえると、どのようなことですか。解答らんに行かず、合わせて二行以内で説明しなさい。

問二 (2) に入れるのに最もふさわしい五字の表現を本文中から抜き出しなさい。

問三 (3) に入れるのにふさわしいものを次のア～ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ① イ ② ウ ③

問四 — (4) 「はじめから相手に通じないことが分かっている場合でも、皮肉は無駄ではない。」とありますが、どうして無駄ではないと言えるのですか。その理由を六十字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること。)

問五 — (5) 「話し手とターゲットである聞き手に認識のズレがある」とありますが、これはどういうことですか。本文の表現を用いて三十字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること。)

問六 A 〽 D に入れるのにふさわしい言葉を次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

ア もちろん イ そして ウ しかも エ さて

問七 — (ア) (オ) のカタカナを漢字に書き直しなさい。

問八 本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 話し手が言った皮肉を、話し手と同じ考えを持つ人が聞いた場合、両者には連帯感が生じるため、皮肉を言われた本人が理解できなくても、その皮肉には効用があるといえる。

イ 話し手が言った皮肉を、話し手が気持ちを共有したい人が理解できない場合、話し手は自分の考えを反省するきっかけになるので、その皮肉には効用があるといえる。

ウ 話し手が言った皮肉を、話し手と同じ考えを持つ人が聞いた場合、その人は皮肉を言われた本人に対して優位に立てるから、その皮肉には効用があるといえる。

エ 話し手が言った皮肉を、全く事情を知らない人がたまたま聞いた場合、その人の考えに関わらず仲間意識が生じるから、皮肉を言われた本人が理解できなくても、その皮肉には効用があるといえる。

② 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「ぼく」(橘論里)は中学二年生である。論里は、轟(とどろ)元気と水原白(みずはらしろ)とともに、学校の開校二十周年記念行事の実行委員をすることになった。論里はそこで校庭にろうそくをともしキャンドルナイトを提案すると、その案が通り、次期実行委員長になることが期待されるようになった。本文は実行委員会の会議の場面である。

「当日に使うキャンドルの種類とか、あとキャンドルホルダー、ええと、つまり外側のほやにあたる部分だよね、これをどういうものでやるかっていうのをいろいろ考えてみて……」

進藤先輩(しんどうせんぱい)が前に立ってみんなに説明する。元気(げんき)は眠(ねむ)そうな目で頬杖(ほおづえ)をつき、水原(みずはら)は隣(となり)で熱心(ねつしん)にメモを取っている。

「それで、いろいろ調べた結果、これがいちばんいいんじゃないかと思うんだけど……」

そう言(い)って先輩(せんぱい)が机(けい)の上(う)に出(い)でて見(み)せたのは、白(しろ)い紙(かみ)コップ(こップ)だった。パーベキュー(パーベキュー)なんかで使(つか)うような、ごくふうのやつだ。その横(よこ)に、平(ひら)たいアルミ(アルミ)カップ(カップ)に入(い)ったキャンドル(キャンドル)を並(なら)べて置(お)く。ちようどラップ(ラップ)の芯(しん)を輪(りん)切(き)りにしたくらの大(お)きさで、薄(うす)い円筒(えんとう)形(けい)をしてい(い)る。こっちもそっけないくらいシンプ(シンプ)ル(ル)なろうそく(ろうそく)だった。

「このカップに、このタイプのろうそく、ええと『ティーライトキャンドル』っていうそうんだけど、これをひとつずつ入れて校庭(がうてい)に並(なら)べていく。値段(ねだん)も手(て)ごろだし、ぼく(ぼく)たち(たち)にも扱(あつか)い(い)やすいし、いちばん妥(た)当(とう)だ(だ)と思う(おも)うけど、どうだろう」

三年(さんねん)の女子(こ)が「はい」と手(て)をあ(あ)げた。

「せっかくだから、もっとエコ(エコ)を意(い)識(し)して、⁽¹⁾ペットボトル(ペットボトル)を使(つか)ったりしてもいいんじゃない? ろうそくも、廃油(はいゆ)を使(つか)ったりとか、いろいろできるんじゃないかな」

「あー、それいい、学校(がっこう)受(う)け(け)もよ(よ)さ(さ)そう(そう)だし。⁽²⁾内申(うちしん)、上(あ)がり(が)そう」

A 笑い(わらい)声(こゑ)が起(お)きる。進藤(しんどう)先(せん)輩(ぱい)が答(こた)えた。

「うん、そうだね、初め(はじめて)はそれ(それ)もい(い)い(い)と思(おも)って考(かん)え(え)た(た)ん(ん)だけ(だけ)ど、……ただ、ある程(ある程度)度(ど)の作(さく)品(ひん)に(に)する(す)にはざ(ざ)っと計(けい)算(ざん)した(した)だけ(だけ)で最(さい)低(てい)五(ご)、六(ろく)百(ひゃく)個(こ)は(は)い(い)る(る)ん(ん)だ(だ)。それ(それ)以上(いじょう)か(か)も(も)し(し)れ(れ)な(な)い(い)。それ(それ)だけ(だけ)のペ(ペ)ットボ(ボ)トル(トル)を(を)、集(あ)めて(めて)、洗(わ)って

25

20

15

10

5

乾(かわ)かして、切(き)りと(と)って加(か)工(こう)して、つて考(かん)え(え)ると、ちよ(ちよ)つと厳(げん)しいか(か)も(も)し(し)れ(れ)な(な)い(い)な(な)。それ(それ)に(に)しま(ま)つ(つ)てお(お)く場(ば)所(じょ)の確(た)保(ほ)も必(ひ)要(よう)に(に)な(な)る(る)し」

「じゃあ、廃油(はいゆ)を使(つか)った(た)りサイク(サイク)ル(ル)ろ(ろ)う(う)そ(そ)く(く)は(は)?」

進藤(しんどう)先(せん)輩(ぱい)は(は)そ(そ)こ(こ)で(で)ま(ま)た(た)少(せう)し(し)困(こ)った(た)顔(かほ)を(を)した(した)。

「うーん、そこ(そこ)だ(だ)よ(よ)ね(ね)……。確(た)かに(に)、リサイク(リサイク)ル(ル)ろ(ろ)う(う)そ(そ)く(く)は(は)い(い)案(あん)だ(だ)と思(おも)う(う)ん(ん)だ(だ)。でも(でも)問(もん)題(だい)も(も)多(お)う(う)。じつ(じつ)は(は)谷(や)先(せん)生(せい)に(に)も(も)相(さ)談(だん)して(して)み(み)た(た)ん(ん)だけ(だけ)ど、ま(ま)ず(ず)第一(だいいち)に(に)、それ(それ)だけ(だけ)の量(りょう)の廃油(はいゆ)を(を)ど(どこ)か(か)ら(ら)調(てい)達(たつ)する(する)か(か)つ(つ)て(て)こ(こ)と(と)。自(み)前(ぜん)で(で)給(じゅう)食(じき)室(しつ)が(が)あ(あ)ら(ら)ば(ば)い(い)け(け)ど(ど)、う(う)ち(ち)の(の)学(がく)校(こう)は(は)給(じゅう)食(じき)セ(セン)タ(ター)ー(ー)を(を)使(つか)つ(つ)て(て)る(る)だ(だ)ろ(ろ)? 各(かく)家(か)庭(てい)か(か)ら(ら)持(も)ち(ち)寄(よ)る(る)に(に)し(し)て(て)も(も)、ど(ど)う(う)か(か)な(な)あ(あ)……。第二(だいに)、作(さく)業(ぎょう)工(こう)程(てい)だ(だ)け(け)ど(ど)、リサイク(リサイク)ル(ル)ろ(ろ)う(う)そ(そ)く(く)を(を)作(さく)る(る)に(に)は(は)ま(ま)ず(ず)廃油(はいゆ)を(を)再(さい)加(か)熱(ねつ)して(して)、そ(そこ)こ(こ)へ(へ)凝(ねい)固(こ)剤(ざい)を(を)入(い)れ(れ)、そ(そこ)か(か)ら(ら)型(がた)に(に)流(なが)し(し)こ(こ)ま(ま)な(な)け(け)れ(れ)ば(ば)な(な)ら(ら)な(な)い(い)。量(りょう)も(も)多(お)う(う)し(し)、学(がく)校(こう)の(の)スケ(スケ)ジュー(ジュー)ル(ル)か(か)ら(ら)し(し)て(て)、全(ぜん)員(いん)が(が)作(さく)業(ぎょう)す(す)る(る)時(じ)間(かん)を(を)取(と)る(る)の(の)は(は)ま(ま)ず(ず)無(む)理(り)だ(だ)ろ(ろ)う(う)。熱(ねつ)源(げん)を(を)使(つか)う(う)か(か)ら(ら)場(ば)所(じょ)の(の)問(もん)題(だい)も(も)あ(あ)る(る)。そ(そ)う(う)す(す)る(る)と(と)、お(お)そ(そ)ら(ら)く(く)そ(そ)の(の)作(さく)業(ぎょう)の(の)ほ(ほと)ん(んど)を(を)ぼ(ぼ)く(く)た(た)ち(ち)だ(だ)け(け)で(で)や(や)る(る)こ(こ)と(と)に(に)な(な)つ(つ)て(て)しま(ま)う(う)ん(ん)だ(だ)け(け)ど(ど)……」

先(せん)輩(ぱい)は(は)そ(そ)う(う)言(い)つ(つ)て(て)み(み)ん(んな)な(な)を(を)見(み)渡(わた)す(す)。ぼ(ぼ)く(く)と(と)元(げん)気(き)が(が)ふ(ふ)る(る)ふ(ふ)ると(と)、首(くび)を(を)振(ふ)る(る)の(の)を(を)見(み)て(て)、先輩(せんぱい)が(が)苦(く)笑(わら)した(した)。

「と(と)い(い)う(う)わ(わ)け(け)で(で)提(てい)案(あん)した(した)の(の)が(が)、こ(こ)の(の)紙(かみ)コ(コ)ップ(ップ)と(と)、テ(テ)ィ(ィ)ー(ー)ラ(ラ)イ(イ)ト(ト)キ(キ)ャ(ャ)ン(ン)ド(ド)ル(ル)な(な)ん(ん)だ(だ)。キ(キ)ャ(ャ)ン(ン)ド(ド)ル(ル)自(じ)体(たい)に(に)手(て)間(ま)を(を)か(か)け(け)ず(ず)に(に)済(す)む(む)分(ぶん)、レ(レ)ィ(ィ)ア(ア)ウ(ウ)ト(ト)に(に)手(て)を(を)か(か)ける(ける)こ(こ)と(と)が(が)で(で)き(き)る(る)。大(お)き(き)な(な)作(さく)品(ひん)も(も)可(か)能(によう)だ(だ)と思(おも)う(う)よ(よ)」

隣(となり)で(で)水(みづ)原(はら)が(が)「先(せん)輩(ぱい)、す(す)ご(ご)い(い)」と(と)つ(つ)ぶ(ぶ)や(や)く(く)。確(た)かに(に)、打(う)て(て)ば(ば)響(ひび)く(く)よ(よ)う(う)に(に)答(こた)え(え)が(が)返(かえ)つ(つ)て(て)く(く)る(る)。あ(あ)の(の)リ(リ)ー(ー)ダ(ダ)ー(ー)シ(シ)ップ(ップ)を(を)ぼ(ぼ)く(く)に(に)期(き)待(たい)さ(さ)れて(て)も(も)、正(せい)直(ちき)、困(こ)る(る)。

「じゃあ、その作(さく)品(ひん)つ(つ)て(て)な(な)に(に)を(を)作(さく)る(る)の(の)?」

さ(さ)つ(つ)き(き)の(の)三(さん)年(ねん)生(せい)が(が)な(な)ん(ん)と(と)な(な)く(く)不(ふ)満(まん)げ(げ)な(な)声(こゑ)で(で)言(い)う(う)。

「うん。今日(けふ)の(の)本(ほん)題(だい)は(は)そ(そ)こ(こ)な(な)ん(ん)だ(だ)。せ(せ)つ(つ)か(か)く(く)や(や)る(る)か(か)ら(ら)に(に)は(は)た(た)だ(だ)漠(ぼく)然(ぜん)と(と)並(なら)ぶ(ぶ)る(る)ん(ん)じ(じ)ゃ(ゃ)な(な)く(く)て(て)、な(な)に(に)か(か)テ(テ)ィ(ィ)マ(マ)を(を)決(けつ)め(め)て(て)や(や)つ(つ)た(た)ほ(ほ)う(う)が(が)い(い)い(い)と思(おも)う(う)ん(ん)だ(だ)け(け)ど(ど)。な(な)に(に)か(か)、い(い)い(い)案(あん)は(は)な(な)い(い)かな(な)」

室(むろ)内(うち)に(に)ざ(ざ)わ(わ)ざ(ざ)わ(わ)と(と)声(こゑ)が(が)あ(あ)がる(がる)。

「や(や)っ(っ)ぱ(ぱ)り(り)、文(ぶん)字(じ)じ(じ)ゃ(ゃ)な(な)い(い)?」⁽³⁾「北(きた)中(なかつ)』つ(つ)て(て)学(がく)校(こう)名(な)と(と)、『創(そう)立(りつ)二(に)十(じゅう)周(しゅう)年(ねん)』と(と)か(か)」

「それ(それ)じ(じ)ゃ(ゃ)あ(あ)り(り)き(き)た(た)り(り)だ(だ)ろ(ろ)。『LOVE & PEACE』は(は)?」

「ナス(ナス)カ(カ)の(の)地(ち)上(じょう)絵(え)と(と)か(か)」

「よ(よ)せ、UFO(ユーフォー)が(が)来(き)る(る)」

み(み)ん(んな)勝(か)つ(つ)手(て)な(な)こ(こ)と(と)を(を)言(い)つ(つ)て(て)笑(わら)つ(つ)て(て)い(い)る(る)。元(げん)気(き)が(が)、「谷(や)先(せん)生(せい)の(の)似(に)顔(かほ)……」と(と)

55

50

45

40

35

30

言いかけて水原ににらまれていた。そのとき、さつきの三年生の女子が手をあげて言った。

「——ねえ、じゃあ、『キズナ』は？」

よく通る声に、あらためて彼女の顔を見る。長い髪をポニーテールにしたかわいい感じの人だった。名札には「木崎」とある。確か、バドミントン部の副キャプテンをしている人だ。進藤先輩が聞き返す。

「キズナ？」

「そう。『絆』。漢字一文字だから作りやすいし。メッセージ性もあるし。すごくいい言葉でしょ？」

木崎先輩は同意を求めるように周りを見回した。隣に座っていた女子たちが、打ち合わせしていたように口をそろえる。

「あー、あたしもいいと思う、それ」

「あたしも。いいよね、この言葉。なんか好き」

くちぐちに賛成の声があがると、それにつられるように他の生徒もぼつぼつと口を開きはじめた。

「そうだな。文字でやるとしたら、やっぱりこれかな」

「いいんじゃない？ 最近よく見るし」

「だよね」

みんなの意見もほぼ一致したようだ。木崎先輩はにっこりと満足げに腰を下ろす。そのとき、カラカラと戸を開けて **B** 谷先生がすべりこんできた。進藤先輩に向かって小さくうなずきかける。

「ええと、それじゃあ今、『絆』という意見が出ただけど、みんなどうかな。いちおう、ぜんぶの意見が出そろってから、多数決を取ったほうがいいと思うんだけど」

進藤先輩が言うのと、

「いいよ、もう、それで」

「さんせい」

「早く決めてさっさと帰ろうぜ」

あちこちで声があがる。先輩はちらりと谷先生に目をやった。

「え、じゃあ、もういいのかな。どうだろう、もしなにか、他の案とか、意見のある人がいれば、今のうちに……」

そのとき、 **C** 手があがった。

いっせいに視線が集まる。手をあげたのは、水原白だった。

(4) それまでゆるんでいた教室内の空気がきゅつと硬くなった。
(……なんだよ、めんどくさいな)
(せっかく決まりそうなのに)

誰もが声に出したわけではないのに、そんなささやきが聞こえた気がした。

水原は目を伏せて、それでもあげた手を下ろそうとはしなかった。

「えーと、二ーCの水原さん？ いいよ、意見があるならどうぞ」

進藤先輩に促され、水原はそろそろと立ちあがった。顔を上げ、思い切ったように話しはじめる。

「……あの、あたしは、もうちょっと、 ⁽⁵⁾ ちゃんと考えたほうがいいと思います」

「なんで？ あたしのはちゃんと考えてないってこと？」

木崎先輩がきれいなポニーテールを揺すりながらおどけたような声を出した。水原は慌てて打ち消すように首を振る。

「あ、ちがうんです。あの案がよくないとかそういうんじゃないで、……そうじゃなくて」

水原は顔を赤くして、それでも必死に言葉を探しだそうとしているように見えた。谷先生は黙って腕組みをして聞いている。

「テーマはそれでもいいと思うんです。でも、あの……それって、大事なことから。大事だから、そんな簡単に表しちゃいけないと思うんです。その、もつと他にやり方があるというか……うまく言えないけど」

目の端に、水原が **D** スカートを握りしめているのが見えた。

「あたしは、なんか、嫌です」

再び顔を上げ、きつぱりとそう言った。

「せっかくやるキャンドルナイトで、簡単にそういう文字を使うの。……なんかそれって、お弁当にぜったい入ってるプチトマトみたい。みんな入れてるからそれを入れてれば安心、ていうか、なにか、そんな感じがして」

どこかでくすりと笑う声があった。水原はそれに気づかず、さらにしゃべり続ける。

「でも、ほんとみんな、そんなの好きかどうか、そういうのちゃんと考えたことって——」

「なにそれ。意味わかんない」

誰かが小さくつぶやき、あちこちからつられたようにくすくすと笑い声

が起きる。水原はハツとした顔でようやく口をつぐんだ。教室がざわつきはじめる中、うつむいたままそつと腰を下ろす。ふと目に入る。床に置いた水原のバッグの中から、何冊ものファイルがのぞいていた。進藤先輩が困ったような顔で頭をかき、助けを求めるように書記役を見る。

「ええと、それじゃあ……」

気がつけば、手をあげていた。元気がぎよつとした顔でぼくを見る。

「あの、レイアウトはまだ先でも間に合いませんか？ ……その、無理して今決めなくても使う材料は決まったし、とりあえず予算内で大まかな個数さえ出せば、あとはそれに合わせればいいし」

ぼくがそう言うと、進藤先輩もようやくにっこりうなずいた。

「うん、そうだな。レイアウトに関しては、もう少し練ってみてもいいかもしれない。各自、夏休み中に考えてくるっていうことでどうかな。せつかくなら、納得のいくものになりたいし。先生、どうでしょう、次回でも大丈夫ですか？」

谷先生は黙ってうなずいた。ぼくもほつとして息を吐く。我ながら、自分の行動に驚いていた。

会が終わって、ぼくが進藤先輩と話しているうちに、水原は荷物を抱えて早足で教室を出ていった。女子が何人かかたまつて、その後ろ姿に向かってなにかひそひそとささやき交わしているのが見えた。

(市川朔久子『紙コップのオリオン』)

★内申…内申書のこと。

問一 — (1)「ペットボトルを使ったりしてもいいんじゃない？ ろうそく

も、廃油を使ったりとか」とありますが、「ペットボトル」「廃油」を使用とする提案に対して、進藤先輩は、どちらにも否定的な意見を述べています。進藤先輩の意見として、どちらの案にもあてはまらないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 材料の入手が簡単ではない。

イ 作成したものを保管するのが困難である。

ウ 作業をする場所が限られている。

エ 事故の危険性がある。

問二 — (2)「首」とありますが、「首」を使った次の一～五の慣用句の意味

を後の「意味」ア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

一 首が回らない 二 首をかしげる 三 首を切る

四 首を突っこむ 五 首を長くする

「意味」

ア つとめをやめさせる。

イ 待ちこがれる。

ウ 借りたお金が返せなくなって、どうにもならない。

エ あるものごとに自分から進んで関係する。

オ 不審に思う。

問三 — (3)「先輩が苦笑した。」とありますが、それはなぜですか。理由と

してふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」と元気が首を「ふるふる」振るのがおかしくて大笑いした

いが、会議中なのでこらえなければならぬから。

イ 自分の意図が伝わってうれいことではあるが、実行委員の負担

をあからさまにいやがるのは望ましくないから。

ウ 廃油もペットボトルも使用はむずかしいという考えに賛成してく

れたのはうれいだが、二年生がそういう反応をするのはなまいき

だから。

エ 「ぼく」と元気が賛成してくれるのはうれいだが、周囲からは、親

しいから賛成していると見られかねないから。

問四 — (4)「それまでゆるんでいた教室内の空気がきゅつと硬くなった。」

とありますが、なぜですか。八十字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること。)

問五 — (5)「ちゃんと考えたほうがいい」とありますが、水原が主張した

いのはどういうことですか。解答らんに一行ずつ、合わせて三行以内で説明しなさい。

問六

——(6)「気がつけば、手をあげていた。」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちの説明としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 水原の主張は自分の考えとは違うのだが、会議が険悪なムードになることだけはさげたいと思い、さりげなく水原をかばおうとした。

イ 水原の意見は本当は正しいのだが、上級生に逆らっては不利なので、この場ではいったん三年生を立てようとした。

ウ 水原の取り組みの真剣さに心を動かされ、孤立しかけている彼女のために、会議の雰囲気をやわらげようとした。

エ 自分が考えと同じことを水原が主張したので、意外さに驚きながらも、他の人に自分たちの意見を認めさせようとした。

問七

A 〇 D 〇 に入れるのにふさわしいものを次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

ア そつと イ きゅつと ウ すいと エ どつと

問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 実行委員会では、作品作りに関しては、活発な議論の末、三年生から出された「絆」という案に決まりかけたが、水原や「ぼく」の発言などによって、その会議では結論を出さないう事になった。

イ 実行委員会では、まずキャンドルの材料に関して議論が戦わされ、結局、進藤先輩の用意周到な提案によって紙コップに決まり、また、作品作りは、その会議では結論を出さないう事になった。

ウ 実行委員会では、まずキャンドルの材料に関して、環境に配慮した材料という提案もあったが、費用面のことが決め手になり、進藤先輩の提案による紙コップに決まった。

エ 実行委員会では、キャンドルの材料や作品作りに関して話し合われ、どちらもいったんは決まりかけたものの、結局、夏休み中にそれぞれが考えてくることになった。

